新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。

パンデミック収束の兆しが見えはじめ、本日こうして皆さんと入学式を挙行できますことは本学教職員一同にとっても大きな慶びであります。これまでの努力によって大学院に進まれた皆さんには心から敬意を表すとともに、皆さんの努力を支えてこられたご家族・関係者の方々にも、心よりお祝いを申し上げます。

本学は、皆さんもよくご存知のように、新型コロナウイルス感染症に正面から立ち向かった代表的な大学です。コロナ対応における医療の現場では、チャレンジの連続でしたが、「力を合わせて患者さんと仲間たちをコロナから守る」「試行錯誤を大切に」「責めるより応援しよう」の３つのキャッチフレーズのもと、全学をあげて取り組んだことで社会の要請に応えることができました。

社会の求めに応じるという意味では、東京工業大学との統合もその一つです。

修了する時には新大学となっていますので、新大学の誕生の背景や目的、概要についてお話します。

本学は、今日の医療という点においては、世界最高水準の医療を提供していると言っても過言ではありません。コロナ禍への対応がその一例です。しかし、本学は医療機関であるのみならず、教育機関であり、研究機関でもあります。つまり、今日の医療だけではなく、明日の医療をも担う使命があるのです。明日の医療を担う人材を育て、明日の医療を生み出す研究を実践すること、そして、明日の医療の姿を社会に示すことが唯一の医療系指定国立大学である本学には求められています。

その意味で本学は医療のみならず教育や研究面においても世界最高水準の医療系大学になる使命があると考えます。折しも東京工業大学も理工系唯一の指定国立大学として世界最高水準への進化を模索していました。志を同じくする両大学が統合することで、それぞれの大学の守備範囲が広がり、より幅広い人材の育成、深い研究を実現できると考えます。

我が国は少子高齢化という点で世界の最先端に位置しています。日本における医療課題の解決策は、少子高齢化が進みつつある世界各国の課題の解決策にもなるのです。ここに世界最高水準の医療系大学になる意義があるのです。

新大学では、自由でフラットな学風の下、多様な社会課題に立ち向かうために、理工学、医歯学、さらには情報学、リベラルアーツ・人文社会科学などを収斂した「コンバージェンス・サイエンス」を展開します。

自由でフラットな学風とは、構成員が相互の自由を尊重し、自分の役割に自信と誇りを持ってチャレンジしていく文化です。新大学では、その前提となる多様性、公平性、包摂性など心理的安全が保障されるガバナンスに力を注ぐ方針です。

一方、「コンバージェンス・サイエンス」とは、複数の学問領域が融合し、それらが融合・収斂した後に新しい学問領域を生み出し、それによって未知の課題を発見し社会課題を解決していくサイエンスのことです。

統合した大学がこれからの「科学」の発展を担い、社会と共に活力ある未来を切り拓いていくという強い意志を表現するため、新大学の名称を東京科学大学としました。

共に「科学」を追究し、新たな価値創造を希求する人のみならず、広く「科学」に興味を持つ人をも含めて、多様な人たちをこれまで以上に惹きつける大学でありたいと考えています。

パンデミックやウクライナ戦争を経て、組織としても個人としても、私達には大きな変革が求められています。

研究には、「知りたい」という知的好奇心から出発する研究と「必要性」を意識した課題解決型の研究があります。前者の場合も、皆さんひとりひとりが、明日の医療や社会そのものとの繋がりを意識して頂きたいのです。それにより、知的好奇心による純粋基礎研究が想定外の展開を示す場合があることを科学史が証明しています。

そして、いずれの研究においても、入学生の皆さんには、自分の所属する分野の垣根を超えたコラボレーションに挑戦し、新しいネットワークを構築していただきたいと思います。本学には、高い専門性を有する分野が多数ありますので、分野間協調を進めることで皆さんの研究の付加価値が高まり、それが統合前であっても東京工業大学を始めとする学外との連携にも発展していくと考えています。

このコラボレーションとは自然に生まれるものではなく、その実現には強い意思と弛まぬ努力が必要です。それゆえ、皆さんの研究を支援するため、大学としても若手研究者が交わる機会の創出やコラボレーションを応援するスカラシップなど様々な試みを展開しています。

本学の教育目標は、Clinician Scientist　つまり、医療の視点を持った研究者　と Scientific Clinician　科学的視点を持った医療者　の養成であり、科学を重視している姿勢は時代の要請に応えてもいるのです。

皆さんがClinician ScientistやScientific Clinicianを目指して、試行錯誤を恐れず、これから充実した大学院の学生生活を、そして素晴らしい人生を送られることを祈念して、私のお祝いの言葉とさせていただきます。

本日は誠におめでとうございます。

２０２３年４月６日

東京医科歯科大学　学長　田中　雄二郎